２０２０年度　古典Ｂ　第４回スクーリング資料

枕草子　春は、あけぼの

一、の文章から（1）ジャンル（2）成立時代（3）作品名（4）作者名を正確に抜きだし、読み書きできるようになっておく。三種類の章段名を漢字で書けるようになっておこう。

作者　清少納言。氏名の一部と官職名が呼び名となっています。本名は分かっていません。父・清原元輔、曾祖父・清原深養父（いずれも有名な歌人です。）

※一条天皇には五人も奥さんがいました。中宮と呼ばれる奥さんに、定子、彰子の二人。女御と呼ばれる奥さんに義子、元子、尊子の三人がいました。

・中宮・定子に仕えたのが、この作品の作者、清少納言。一方、中宮・彰子に仕えたのが『源氏物語』の作者、紫式部。同時代に随筆と物語で大作が生まれたことになります。

二、この作品では「あけぼの」が出てきますが、他に「あかつき」も朝の表現として見られます。時間帯に違いがあり、「あかつき」はまだ周囲が暗く、開け始める前を指します。

問　何に対して「闇も」言っているのか。…「も」は同等のものと並立するときに用いる助詞。「闇」と対立している景色はこの場面では何かと考えてみよう。

P60 L7　近うなりたる　→　近くなりたる、の「ウ音便」
　　L9　まいて　→　まして、の「イ音便」
P61 L1　風の音、虫の音…平安時代には、「おと」は風や鐘などの比較的大きな音を、「ね」は楽器や人の泣き声、鳥や虫の声を指した、と言われる。

三、問「わろし」と判断した理由は何か。…古典において「よし」「よろし」「わろし」「あし」が評価、判断の基準になる形容詞になります。訳すと「よし」＝良い、「よろし」＝悪くない、「わろし」＝良くない、「あし」＝悪い、となります。

歴史的仮名遣いから現代仮名遣いへ

・教科書本文の歴史的仮名遣いの箇所に、傍線を施しました。これを現代仮名遣いに直せるか、確認してください。

P60 L1　やうやう　山ぎは　L3　なほ　飛びちがひたる　L4　を
P61 L1　言ふ　L4　火桶　L8　さへ　L9　あはれなり

うつくしきもの

二、教科書では「装束きたてる」と動詞で出てきますが「装束」という名詞は重要語句です。

※古典特有の漢字の読み書き
P62 L3　指　L4　尼剃ぎ　L7　殿上童　L10　雛　L10　葵　L12　二藍（殿上童以下、四語は歴史的仮名遣い→現代仮名遣い、も確認する）
P63 L6　瑠璃

・教科書本文の歴史的仮名遣いの箇所に、傍線を施しました。これを現代仮名遣いに直せるか、確認してください。

P62 L2　はひ来る　L3　をかしげなる　とらへて　L5　おほへる　かきはやらで　L13　結ひたるがはひ出でたるも
P63 L1　男児　L2　をさなげに　L3　にはとり

・教科書本文の発音に注意すべきところに、傍線を施しました。音読する際に気をつけましょう。

P62 L9　らうたし
P62 L12　いみじう　→　いみじく、の「ウ音便」
P63 L3　白う　→　白く、の「ウ音便」
　　L4　かしがましう　→　かしがましく、の「ウ音便」

※現代語とよく似ているが、意味が異なる語句など
P62 L7　ありく（歩く）　L8　あからさまなり　うつくしむ（慈しむ）

中納言参り給ひて

学習書P82下段　◇語句・文法◇にも書かれているが、この章段は、作者から見て敬意を払うべき人物が二人もいるので、「二方面への敬語」が多用されている。

（例）中納言参り（中納言の動作を受ける中宮を高める謙譲語）給ひ（「参上という動作をしている中納言を高める尊敬語」）て

☆動作をしている人への敬意「尊敬語」
☆動作を受け止める人への敬意「謙譲語」

※係り結びの法則
P66L1～2　隆家こそ…侍れ。　L3　いかやうにかある。L5　となむ人々申す。
L8　かやうのことこそは…入れつべけれど（「ど」があるため、結びの消滅）

※「陳述の副詞「叙述の副詞」による文末の呼応
P66L2　おぼろげの紙はえ張るまじければ…「え」＋動詞＋打消→（不可能）「張ることができそうもない」
L4　さらにまだ見ぬ骨のさまなり…「さらに」＋動詞＋打消→（否定）「いまだかつて見たこともない骨の様子だ」
L9　一つな落としそ…「な」＋動詞＋「そ」→（禁止）「一つ残らず落とすな」

問　「かたはらいたき」の意味は何か。…漢字で書くと「傍（かたわ）ら痛き」。傍で見ていて痛々しい、苦々しい、いたたまれない。

更級日記　門出

一、毎回書きますが、この文から（1）作者名（2）作品名（3）ジャンル（4）成立年代を覚えておこう。
作者…菅原孝標女。『蜻蛉日記』の作者、藤原道綱母と同様、当時の女性の名前は不明であることが多い。

P70L1　あづま路の道の果てよりも、なほ奥つ方…常陸国よりもっと奥の方である上総国（房総半島が入り組んでおり、京都から見て行きにくかったのだろうか）

L2　あやし…漢字では「怪し」ではなく「賤し」と書いて、身分が低い、みすぼらしいなどの意味がある。
L3　いかで見ばや…願望の終助詞。「なんとかして見たいものだ」
L4　宵居（よいゐ）
L5　いとどゆかしさまされど…「ゆかし」だけだと「好奇心があって、知りたい、触れたい」という意味の形容詞だが、ここは「ゆかしさ」と名詞形である。＝たいそう聞きたいという好奇心が勝るが、
P71L2　九月三日（ながつき）と読む。

旧暦の表現

1月（睦月）、2月（如月）、3月（弥生）、4月（卯月）、5月（皐月）、6月（水無月）、7月（文月）、
8月（葉月）、9月（長月）、10月（神無月）、11月（霜月）、12月（師走）

P71L3～4　年ごろ…長年　L6　車…牛車（ぎっしゃ）

源氏の五十余巻

※正確には『源氏物語』は五十四帖。四十五（橋姫）～五十四（夢の浮橋）までを特に「宇治十帖」と言い、光源氏没後の子孫たちの活躍を描く。

P71L10　見まほしくおぼゆれど…希望の助動詞。見たいと思ったが。
P72L1　人語らひなどもえせず。「え」＋動詞＋「打消」→（不可能）人と相談することもできない。
L3　え見つけず。「え」＋動詞＋「打消」→（不可能）見つけることができない。
P73L1　太秦（うずまさ）　L8　櫃（ひつ）　L12　几帳（きちやう）
　袈裟（けさ）

建礼門院右京大夫集

一、詞書の現代語訳

①家の集などといって、歌を詠む人は書き留めることであるが、これは、決してそのようなものではない。ただ、あわれにも、悲しくも、なんとなく忘れ難く思われることどもが、ある折々ふと心に感じられたことを思い出されてくるままに、自分ひとりの目で見るつもりで書き留めておくのだ。

①個人の歌集

※ゆめゆめさにあらず　「ゆめゆめ」＋「打消」（否定）決してそのようなものではない。
P74L1　女院（にようゐん）　L4　庵（いほり）　L6　山嵐（やまおろし）　L7　梢（こずゑ）　懸け樋（かけひ）
L9　墨染めの姿…喪服、僧衣